

昭和62年度放送利用の大学公開講座に関する調査報告書

— 「くらしの中の法」 （昭和62年度制作） —

熊 本 大 学

目 次

1	調査研究の目的と方法	1
	(1) 研究の目的	
	(2) 調査の方法	
2	アンケート回答者の属性	2
	(1) 回答者数	
	(2) 回答者の属性	
	① 一般聴講生	
	② 法学部学生	
3	講義への関心度、理解度および満足度	4
	(1) 講義の聴取率	
	(2) 講義への関心度	
	(3) 講義の理解度	
	(4) 講義への期待の満足度	
4	放送公開講座のテープの授業への利用可能性	9
	(1) テープと平常の授業との比較	
	(2) テープの授業教材への利用	
	(3) テープの利用に積極的あるいは消極的な理由	
	① 積極的な理由	
	② 消極的な理由	
5	おわりに	12
資料Ⅰ	ラジオ放送公開講座アンケート調査集計表	13
資料Ⅱ	法学部学生自由記述欄内容	21
資料Ⅲ	アンケート調査票（一般聴講生向け）	27
資料Ⅳ	アンケート調査票（法学部学生向け）	31

1. 調査研究の目的と方法

(1) 研究の目的

ラジオ放送公開講座は、ここで改めて指摘するまでもなく、学歴、職業、その他の生活経験などについて様々なレベルにある聴講生を対象に、しかも、音声を主要な伝達手段として行われるという特質をもつ。

本調査研究では、62年度のラジオ放送公開講座「くらしの中の法」に対するアンケート調査を素材として、このような特質をもつラジオ放送公開講座における講義の在り方を探るとともに、放送公開講座で作成されたテープの授業への利用の可能性を探ることを目的とする。

(2) 調査の方法

62年度ラジオ放送公開講座「くらしの中の法」全13回の講義の中から、第7回「消費者破産の効用——経済破綻から再起更生を望む人々のために」、第9回「パートタイマー、派遣労働を考える——雇用形態の多様化と法の対応」、第11回「老人の健康維持・回復は誰の責任か——老人保健法の仕組みと問題点」、および、第13回「紛争の解決方法と弁護士の役割——示談・調停・裁判上の和解・訴訟など」の4回分の放送についてアンケート調査を行った。

調査の対象は、一般聴講生、スタジオ聴講生および熊本大学法学部学生である。一般聴講生およびスタジオ聴講生については放送聴取後アンケートに記入し、4回分まとめて調査票を郵便で返送して

もらうという方式をとり、法学部学生については講義あるいはゼミの時間に放送のテープを聴取させ、アンケート調査を行うという方式をとった。

なお、スタジオ聴講生のデータは回答者数が10未満であるため、今回の集計分析からは除外している。

2. アンケート回答者の属性

(1) 回答者数

一般聴講生の回答者数は124名である。この124名の回答者が4回分の放送について回答しているので、アンケートの総サンプル数は496となる。なお、アンケート調査票は356名に送付されており、回答率は34.8%となる。

法学部学生の回答者数は271名である。ただし、法学部学生については上記のような調査方法をとったことから、4回分の放送の各回毎に回答者が同一とはいえないので、この271名は各回毎の回答者数の合計である。したがって、総サンプル数も271となる。

(2) 回答者の属性

①一般聴講生 性別では、男性46.0%、女性50.8%、不明3.2%となり、女性の比率が僅かに高いものの（→資料1表1）、男女同じように公開講座を聴取しているということができよう。

年齢では、60～69歳層が29.0%と3分の1に近い高い比率を占め、これに30～39歳層および50～59歳層の17.8%、70歳以上層の16.9%が続いている。これをみると、60歳以上が45.9%と半数近くになり、また、50歳以上が63.7%を占めており、比較的高年齢者という一般聴講生のイメージを

描くことができる。これに対して29歳以下は2.4%と極端に低くなっている。

この年齢を男女別でみると、さらに、次のような特徴を指摘できる。第一に、男性の場合、60歳以上が68.4%を占め、高年齢化の傾向がより際立ってくることである。第二に、中間管理職にもなり働き盛りの年齢層とみてよい40～49歳層の男子は僅かに3.5%に止どまり、この年齢層でのディップが著しい。第三に、女性の場合は、男性とは異なって、30歳から69歳までの10歳階級毎の各年齢層で20%前後の比率を示しており、これらの年齢層でのバラツキは少なく、広い年齢層の聴講生像を描くことができる。第四に、29歳以下の比率が小さいことは男女に共通する点である（→資料Ⅰ表2）。

②法学部学生 性別では、男性72.7%、女性22.1%、不明5.2%となり、男性の比率が高い。ただし、第9回の回答者の場合には、男性59.3%、女性35.2%、不明5.5%となり、女性の比率が高まっている（→資料Ⅰ表1）。

学年別では、3年次56.8%、2年次30.6%、4年次7.4%、不明5.2%となっている。これは第7回、第11回、第13回については主に3年次の講義、ゼミでアンケート調査を行ったことによる。したがって、これらの各回毎についての3年次の比率は、それぞれ90.2%、72.9%、93.9%と高くなっている。また、第9回は2年次の講義で調査を行ったので、第9回分での2年次の比率は90.1%となる（→資料Ⅰ表3）。

3. 講義への関心度、理解度および満足度

法律問題は取り付きにくいし、また、難しいというイメージがある。このことを考慮して、今回の放送公開講座では「くらしの中の法」というテーマで身近な生活から法を考えることとし、各回のテーマの設定にも工夫を凝らしたつもりである。このような講義の内容が、聴講生および法学部学生にどの程度の関心を持って聴取され、どの程度の理解度と満足度を与えることができたのかを、ここではこの両者について比較検討する。このことにより放送公開講座での講義の在り方を探ろうとするものである。

(1) 講義の聴取率

法学部学生には放送のテープを聴かせて調査を行っているので、回答者の総てが講義を全部聴いたことになる。

これに対して、一般聴講生の場合には、放送での講義を「全部聴いた」のは63.0%、「一部聴いた」のが12.7%、「聴かなかった」が25.5%となっている。これを各回毎にみると、「全部聴いた」のは、第7回67.8%、第9回71.0%、第11回49.2%、第13回58.9%となっており、第11回での50%未満というディップが目につく（→資料1表4）。これは講義の内容によるのではなく、12月27日という暮れも押し詰まった放送日に問題があることを示しているものといえよう。「聴かなかった」理由としては「家事の都合で」が全体でも34.4%と高い比率を示しているが、特に第11回では41.9%と6.5ポイントも高くなっているのも、放送日との関連が大きいことを示している（→資料1表5）。

なお、「聴かなかった」と回答した者は4回分の延数で124名であるが、以下で検討する講義への理解度等の質問での無回答者数は124以下であるので、放送日には聴かずに、講義をテープに収

録し、それを後で聴いた者がいるものと推測できる。

(2) 講義への関心度

講義への関心度については、一般聴講生、法学部学生の両者ともに高い。すなわち、講義への関心があったとするものは、一般聴講生で85.3%、法学部学生で76.0%を占めており、他方、関心がなかったとするものは、一般聴講生で11.3%、法学部学生で20.7%となっており、総じて講義への関心度は高い（→資料Ⅰ表6）。

しかし、関心度の強さという観点からみると、一般聴講生と法学部学生との間には相違がみられる。講義への関心が「大いにあった」とするものは、一般聴講生で24.0%、法学部学生で7.0%であり、また、「かなりあった」とするものは、一般聴講生で29.2%、法学部学生で15.9%である。このように一般聴講生の方が関心度が強い。これに対して、「それなりにあった」とするものは、一般聴講生、法学部学生の両者ともトップの比率であるが、前者が32.1%、後者が53.1%となり、ここでは法学部学生の比率が高くなっている。

このことは一般聴講生の方が年齢も高く、生活経験も豊富であること、さらには、一般聴講生が自ら望んで放送公開講座の聴講生となったことと無関係ではあるまい。この意味では、今回の放送公開講座のテーマの設定は聴講生の知的なニーズと一致し、適切であったといえよう。とはいえ、聴講生のニーズを汲み上げたテーマの設定が、必ずしも、法学部学生の関心を強く引き付けるとは限らないことをも、この調査は示している。

講義への関心度を各回毎にみると、強い関心度が示されたのは第11回であり、「大いにあった」、「かなりあった」とするものが、一般聴講生で69.4%、法学部学生で32.8%となっており、他の回に比して第11回に強い関心度を示している。このこ

とは老後の健康問題が、特に一般聴講生の場合には、高年齢者が多く、また、中年の女性にとっても老親の世話などという現実的問題もあって、切実であることを示しており、法学部学生の場合もこの問題が身近になりつつあることを示しているものといえよう。このように第11回についての関心度が強いにもかかわらず、先に指摘したように、一般聴講生の聴取率がこの回について低くなっているのは放送日に問題があるといわざるをえない。

他方、講義への関心度が低かったのは、一般聴講生では第7回であり、法学部学生では第13回である。すなわち、講義への関心が「あまりなかった」、「ほとんどなかった」とするのが、一般聴講生では第7回の16.1%、法学部学生では第13回の28.6%がトップとなっている（→資料Ⅰ表6）。

（3）講義の理解度

講義の理解度について、理解できた（「たいへよく理解できた」「よく理解できた」「ほぼ理解できた」の合計）としたものの比率は、一般聴講生で73.0%、法学部学生で84.8%となっており、理解度は両者ともに高いとみてよい。法学部学生が一般聴講生よりも高い比率を示しているのは、法学部学生としての専門的知識からして当然のことであろう。

ただ、理解度の内容をみると、一般聴講生と法学部学生との間では若干の相違がみられる。「たいへんよく理解できた」と「よく理解できた」との計でみると、一般聴講生では29.2%であるのに対して、法学部学生では23.2%と低くなっている。これは「よく理解できた」の比率が法学部学生の場合には低くなっていることによる（→資料Ⅰ表9）。この一般聴講生と法学部学生との相違が何に由来するのかははっきりしないが、法学部学生の方がその専門性から理解度について厳しく判断しているものといえようか。例えば、講義内容の難易についてみると、一般聴講生では難しかった（

「たいへん難しかった」「難しかった」の合計)としたのが22.6%、「普通だった」が49.4%、やさしかった(「やさしかった」「たいへんやさしかった」の合計)が8.3%であるのに対して、法学部学生の場合には、それぞれ13.7%、63.8%、22.1%となっている(→資料I表8)。すなわち、講義内容について、どちらかといえば、一般聴講生の方が難しく感じているのに対して、法学部学生の方はやさしく感じているといえる。それにもかかわらず、法学部学生の方が「よく理解できた」の比率が低いのは、理解度について厳しく見ていることによるものといえよう。

なお、各回毎にみた場合に、一般聴講生と法学部学生との間でいくつかの相違がみられるのでこの点についてふれておく。第一に、民事訴訟法的要素の大きい第7回、第13回について、一般聴講生は難しかったとする比率が他の回に比べて高いが(第7回33.8%、第13回28.2%)、法学部学生は、逆に、他の回に比べて難しかったとする比率は低く(第7回11.5%、第13回8.2%)、やさしかったとする比率が高くなっている(第7回37.7%、第13回24.5%)。これは法学部学生の方が、訴訟制度あるいは法律の専門用語に対する親近感をもっていることによるものであろう。ただ、第7回と第13回についての一般聴講生の理解度が、他の回に比べて低くはなっていないことに留意しておく必要がある(→資料I表9)。

第二に、理解できなかったとする比率に関して、第9回については、一般聴講生と法学部学生との間でかなりの相違がみられることである。すなわち、一般聴講生では4.8%が理解できなかったとするに止どまり、他の回と比べて最小の比率を示しているのに対して、法学部学生の場合には23.0%が理解できなかったとして、他の回と比べて最大の比率を示している(→資料I表9)。第9回と第13回については、法学部学生はテキストを持たずにアンケート調査に答えさせているが、法学部学生の第13回での理解できな

かったとする比率は12.2%であるので、テキストの有無とはそれほど相関はないとみてよい。この第9回は筆者の担当した放送であり、これを筆者の講義の受講生にテープを聴かせて調査を行ったものであるが、自由記述欄の記述などを参考に推測すると、大学の講義の場合には、板書の利用によってより判りやすくなるが、テープではそれがなく理解しづらかったということではなかろうか。そうであるとすれば、ラジオ放送公開講座の印刷教材には、図解を入れるなど大学の講義での板書の利用を補う工夫が必要であることを示唆することになる。

(4) 講義への期待の満足度

最後に、放送公開講座の講義を聴いて、どの程度の満足度をえたのかについて検討する。満たされた（「大いに満たされた」「だいたい満たされた」の合計）とするものは、一般聴講生で52.2%、法学部学生で34.7%、「まあまあだった」とするものは、一般聴講生で22.8%、法学部学生で45.8%であり、両者とも肯定的評価が高いとみてよい。ただ、この場合でも、一般聴講生と法学部学生との間には、理解度についてみたのと同じ傾向の相違がみられる。すなわち、一般聴講生では満たされたとするものが高いのに対して、法学部学生では「まあまあだった」とするものが高い比率を示していることである。また、満たされなかった（「あまり満たされなかった」「ほとんど満たされなかった」の合計）をみても、一般聴講生は3.6%に止どまるのに対して、法学部学生は17.3%に達する（→資料Ⅰ表10）。

このことは理解度と同じように満足度についても法学部学生は厳しい評価をしていることを窺わせる。そうすると今回の放送公開講座の内容は、一般聴講生にとってはかなりの満足度を与えることのできたものと評価しうるものの、他方、そのテープを聴取させるだけでは、専門学部で学ぶ法学部学生の高い満足度をうることはでき

ないということになる。これは放送公開講座のテープの授業への利用の可能性にかかわる問題であり、以下で検討する。

4. 放送公開講座のテープの授業への利用可能性

放送公開講座のテープは知的作業の貴重な財産であり、活用されるのが望ましい。ここではその活用の一つの形態としての大学の授業への利用をめぐる問題について、アンケート調査に表れた法学部学生の意識を素材として検討する。

(1) テープと平常の授業との比較

大学の講義は、熊本大学法学部の場合もそうであるが、講義担当者がテキストその他の教材さらには板書を利用して、受講生の反応をみながら、場合によっては受講生とのディスカッションをもまじえて、行われるものである。これに対して、テープ聴取は一方通行である。

まず、このようなテープ聴取が、平常の授業と比較して、どのように法学部学生に受け止められたかをみておこう。

平常の授業と比較して、興味がもてたとするもの（「大いに興味がもてた」と「やや興味がもてた」との合計）は41.0%、「あまり変わらなかった」とするものが33.2%、興味がそがれたとするもの（「やや興味がそがれた」と「大いに興味がそがれた」との合計）は24.0%である（→資料Ⅰ表11）。このデータをみると、テープ聴取に好意的な受け止め方が否定的なものを上回っているところに特徴がある。ただ、興味がそがれたとするものが4分の1近くいることは、テープを授業で利用する場合に、学生の興味を引き付ける工夫が必要なことをも示している。

各回毎にみると、興味がもてたとするものは、第7回がトップで

52. 3%、続いて第11回41. 4%、第9回31. 9%、第13回30. 6%となっている。これに対して、興味がそがれたとするものは、第9回がトップで35. 2%、続いて第13回24. 5%、第11回22. 9%、第7回8. 2%となっている。このように各回毎に受け止め方に相違があることは興味深い。特に、第9回については、全体の受け止め方とは異なって、否定的な受け止め方が好意的なものを上回っていることを指摘しておかねばならない。その理由は前述の3(3)で指摘したものと同じく、講義担当者による平常の授業の仕方により魅力を感じたということであろうか。

(2) テープの授業教材への利用

平常の授業との比較から、さらに一步踏み込んで、放送公開講座のテープを授業の教材として利用することについての法学部学生の意識をみることにする。

テープの教材としての利用に積極的なもの(「大いに利用すべき」と「利用できるところは利用すべき」との合計)は59. 8%、「どちらともいえない」とするものは13. 3%、利用に消極的なもの(「利用るほどではない」と「利用は望ましくない」との合計)は21. 7%となり(→資料I表12)、テープを教材として利用することに積極的なものが6割近くに達している。これに「どちらともいえない」をも加味して検討すると、法学部学生のテープを授業教材として利用することに対するこだわりは小さいとみてよい。ただ、自由記述欄にみられるように、テープの利用に対する反発も少数ながらあることには注意しておく必要がある。

また、この調査では、テープを授業の教材としてどのように利用するのかという利用の仕方・方法については質問していないので、テープの利用に積極的なものが6割近くに達するとはいえ、テープの利用の仕方・方法について十分に検討する必要があることはいうまでもない。

(3) テープの利用に積極的あるいは消極的な理由

それでは授業の教材としてテープの利用に積極的とするもの、あるいは、消極的とするものの理由はどのようなものであろうか。

①積極的な理由 積極的な理由としては、「授業では得られない内容を盛り込めるから」が各回ともトップで合計では33.1%を占めている。次いで、「授業が活性化されるから」が21.5%、「担当教師以外の人の話が聞けるから」が19.9%、「内容がわかりやすいから」が19.5%となっている(→資料Ⅰ表13)。これをみると教材として利用するテープの内容ないし質が重要であるといえる。社会人を対象とする放送公開講座のテープがこのような学生の期待に応ずるものであるかを吟味しておく必要があると思われる。

なお、積極的な理由の「その他」として自由記述されたものに、「繰り返し聴くことによって完全理解ができる」とするものや、「テープ自体このままでは使えないが、多少の編集をして、各課目のガイダンス的使用には有効だと思う」とするものがあり(いずれも第13回)、テープの利用方法の在り方を示唆するものといえよう。

②消極的な理由 テープ利用に消極的なものは少数であるが、その理由は次のようなものである。すなわち、「肉声の授業がよいから」が各回ともトップであり、合計では39.5%を占めている。これに続いて「テープでは理解しにくいから」が33.0%と高い比率を占め、「授業とあまり変わらないから」が9.9%、「やさしすぎるから」が1.1%となっている。ここには授業の代替としてのテープ利用には消極的であるという学生の意識をみることができよう。なお、自由記述欄にはテープ利用についての強い反発がみられるが(→資料Ⅱ5-2)、これも授業の代替としてのテープ利用についての反発とみることができよう。

5. お わ り に

以上、一般聴講生および法学部学生に対するアンケート調査を素材として、ラジオ放送公開講座における講義の在り方さらには放送公開講座のテープを授業に利用することの可能性について検討し、いくつかの点を指摘してきた。それらをここで繰り返すことはしないが、一定の問題点を提示することはできたものとする。

ただ、本稿で行った分析検討はもっぱらアンケート調査の単純集計に依拠するものであり、時間的制約もあって、クロス分析は行っていない。これらのクロス分析さらには自由記述欄の詳細な分析に基づく検討は他日を期したい。

資料 I

ラジオ放送公開講座アンケート調査集計表

1. 回答数

	一般聴講生					法学部学生					計
	7回	9回	11回	13回	小計	7回	9回	11回	13回	小計	
男	57 (46.0)	57 (46.0)	57 (46.0)	57 (46.0)	228 (46.0)	44 (72.1)	54 (59.3)	56 (80.0)	43 (87.8)	197 (72.7)	425 (55.4)
女	63 (50.8)	63 (50.8)	63 (50.8)	63 (50.8)	252 (50.8)	14 (23.0)	32 (35.2)	10 (14.3)	4 (8.1)	60 (22.1)	312 (40.7)
不明	4 (3.2)	4 (3.2)	4 (3.2)	4 (3.2)	16 (3.2)	3 (4.9)	5 (5.5)	4 (5.7)	2 (4.1)	14 (5.2)	30 (3.9)
計	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	496 (100.0)	61 (100.0)	91 (100.0)	70 (100.0)	49 (100.0)	271 (100.0)	767 (100.0)

2. 年齢

	一般聴講生		
	男	女	計
20歳未満	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20~29歳	1 (1.8)	2 (3.2)	3 (2.4)
30~39歳	6 (10.5)	16 (25.4)	22 (17.8)
40~49歳	2 (3.5)	14 (22.2)	16 (12.9)
50~59歳	9 (15.8)	13 (20.6)	22 (17.8)
60~69歳	24 (42.1)	12 (19.1)	36 (29.0)
70歳以上	15 (26.3)	6 (9.5)	21 (16.9)
不明	—	—	4 (3.2)
計	57 (100.0)	63 (100.0)	124 (100.0)

3. 法学部学生の学年

	男					女					不明					計
	7回	9回	11回	13回	小計	7回	9回	11回	13回	小計	7回	9回	11回	13回	小計	
2年	0 (0.0)	51 (94.4)	0 (0.0)	1 (2.3)	52 (26.4)	0 (0.0)	31 (96.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (51.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	83 (30.6)
3年	42 (95.5)	2 (3.7)	41 (73.2)	41 (95.4)	126 (64.0)	13 (92.9)	0 (0.0)	10 (100.0)	4 (100.0)	27 (45.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (7.1)	154 (56.8)
4年	2 (4.5)	1 (1.9)	15 (26.8)	1 (2.3)	19 (9.6)	1 (7.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (7.4)
不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.7)	3 (100.0)	5 (100.0)	4 (100.0)	1 (50.0)	13 (92.9)	14 (5.2)
計	44 (100.0)	54 (100.0)	56 (100.0)	43 (100.0)	197 (100.0)	14 (100.0)	32 (100.0)	10 (100.0)	4 (100.0)	60 (100.0)	3 (100.0)	5 (100.0)	4 (100.0)	2 (100.0)	14 (100.0)	271 (100.0)

4. 講義を聴いたか

	一般聴講生					法学部学生					計
	7回	9回	11回	13回	小計	7回	9回	11回	13回	小計	
全部聴いた	84 (67.8)	88 (71.0)	61 (49.2)	73 (58.9)	306 (63.0)	—	—	—	—	—	306 (63.0)
一部聴いた	20 (16.1)	10 (8.0)	16 (12.9)	16 (12.9)	62 (12.7)	—	—	—	—	—	62 (12.7)
聴かなかった	20 (16.1)	25 (20.2)	45 (36.3)	34 (27.4)	124 (25.5)	—	—	—	—	—	124 (25.5)
無回答	0 (0.0)	1 (0.8)	2 (1.6)	1 (0.8)	4 (0.8)	—	—	—	—	—	4 (0.8)
計	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	496 (100.0)	—	—	—	—	—	498 (100.0)

5. 聴かなかった理由

	一般聴講生					法学部学生					計
	7回	9回	11回	13回	小計	7回	9回	11回	13回	小計	
つい忘れた	6 (15.8)	8 (22.9)	9 (14.5)	8 (15.7)	31 (16.6)	—	—	—	—	—	31 (16.6)
家事の都合で	10 (26.3)	8 (22.9)	26 (41.9)	20 (39.2)	64 (34.4)	—	—	—	—	—	64 (34.4)
仕事の都合で	9 (23.7)	7 (20.0)	6 (9.7)	7 (13.7)	29 (15.6)	—	—	—	—	—	29 (15.6)
寝ていた	2 (5.3)	2 (5.7)	7 (11.3)	5 (9.8)	16 (8.6)	—	—	—	—	—	16 (8.6)
その他	11 (28.9)	7 (20.0)	12 (19.4)	9 (17.7)	39 (21.0)	—	—	—	—	—	39 (21.0)
無回答	0 (0.0)	3 (8.6)	2 (3.2)	2 (3.9)	7 (3.8)	—	—	—	—	—	7 (3.8)
計	38 (100.0)	35 (100.0)	62 (100.0)	51 (100.0)	186 (100.0)	—	—	—	—	—	186 (100.0)

6. 講義への関心

	一般聴講生					法学部学生					計
	7回	9回	11回	13回	小計	7回	9回	11回	13回	小計	
大いにあった	24 (19.4)	19 (15.4)	43 (34.7)	33 (26.6)	119 (24.0)	6 (9.8)	5 (5.5)	8 (11.4)	0 (0.0)	19 (7.0)	138 (18.0)
かなりあった	37 (29.8)	34 (27.4)	43 (34.7)	31 (25.0)	145 (29.2)	9 (14.8)	11 (12.1)	15 (21.4)	8 (16.3)	43 (15.9)	188 (24.5)
それなりにあった	40 (32.3)	52 (41.9)	28 (22.6)	39 (31.5)	159 (32.1)	33 (54.1)	51 (56.0)	33 (47.1)	27 (55.1)	144 (53.1)	303 (39.5)
あまりなかった	14 (11.3)	15 (12.1)	5 (4.0)	14 (11.3)	48 (9.7)	9 (14.7)	14 (15.4)	12 (17.2)	12 (24.5)	47 (17.4)	95 (12.4)
ほとんどなかった	6 (4.8)	1 (0.8)	0 (0.0)	1 (0.8)	8 (1.6)	2 (3.3)	3 (3.3)	2 (2.9)	2 (4.1)	9 (3.3)	17 (2.2)
無回答	3 (2.4)	3 (2.4)	5 (4.0)	6 (4.8)	17 (3.4)	2 (3.3)	7 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (3.3)	26 (3.4)
計	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	496 (100.0)	61 (100.0)	91 (100.0)	70 (100.0)	49 (100.0)	271 (100.0)	767 (100.0)

7. あらかじめテキストを読んだか

	一般聴講生					法学部学生					計
	7回	9回	11回	13回	小計	7回	9回	11回	13回	小計	
全部読んだ	22 (17.7)	15 (12.1)	16 (12.9)	15 (12.1)	68 (13.7)	0 (0.0)	—	4 (5.7)	—	4 (3.1)	72 (11.5)
一通り読んだ	57 (46.0)	53 (42.8)	49 (39.5)	60 (48.4)	219 (44.2)	1 (1.6)	—	62 (88.6)	—	63 (48.1)	282 (45.0)
一部だけ	22 (17.7)	22 (17.7)	23 (18.6)	23 (18.6)	90 (18.1)	2 (3.3)	—	1 (1.4)	—	3 (2.3)	93 (14.8)
読まなかった	19 (15.3)	28 (22.6)	21 (16.9)	17 (13.7)	85 (17.1)	24 (39.4)	—	3 (4.3)	—	27 (20.6)	112 (17.9)
無回答	4 (3.2)	6 (4.8)	15 (12.1)	9 (7.2)	34 (6.9)	34 (55.7)	—	0 (0.0)	—	34 (25.9)	68 (10.8)
計	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	496 (100.0)	61 (100.0)	—	70 (100.0)	—	131 (100.0)	627 (100.0)

8. 講義の内容の難易

	一般聴講生					法学部学生					計
	7回	9回	11回	13回	小計	7回	9回	11回	13回	小計	
たいへん 難しかった	3 (2.4)	1 (0.8)	1 (0.8)	5 (4.0)	10 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.1)	1 (0.4)	11 (1.4)
難しかった	39 (31.4)	21 (16.9)	12 (9.7)	30 (24.2)	102 (20.6)	7 (11.5)	14 (15.4)	12 (17.2)	3 (6.1)	36 (13.3)	138 (18.0)
普通だった	56 (45.2)	72 (58.1)	65 (52.4)	52 (41.9)	245 (49.4)	31 (50.8)	62 (68.1)	47 (67.1)	33 (67.3)	173 (63.8)	418 (54.5)
やさしかった	11 (8.9)	11 (8.9)	9 (7.3)	10 (8.1)	41 (8.3)	23 (37.7)	13 (14.3)	9 (12.9)	12 (24.5)	57 (21.0)	98 (12.8)
たいへん やさしかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.2)	1 (1.4)	0 (0.0)	3 (1.1)	3 (0.4)
無 回 答	15 (12.1)	19 (15.3)	37 (29.8)	27 (21.8)	98 (19.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)	0 (0.0)	1 (0.4)	99 (12.9)
計	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	496 (100.0)	61 (100.0)	91 (100.0)	70 (100.0)	49 (100.0)	271 (100.0)	767 (100.0)

9. 講義の理解度

	一般聴講生					法学部学生					計
	7回	9回	11回	13回	小計	7回	9回	11回	13回	小計	
たいへんよく 理解できた	6 (4.8)	7 (5.7)	5 (4.0)	4 (3.2)	22 (4.4)	2 (3.3)	2 (2.2)	5 (7.1)	4 (8.2)	13 (4.8)	35 (4.6)
よく 理解できた	33 (26.6)	30 (24.2)	34 (27.4)	26 (21.0)	123 (24.8)	14 (23.0)	18 (19.8)	13 (18.6)	5 (10.2)	50 (18.4)	173 (22.5)
ほぼ 理解できた	57 (46.0)	63 (50.8)	44 (35.5)	53 (42.7)	217 (43.8)	36 (59.0)	51 (56.0)	46 (65.7)	34 (69.4)	167 (61.6)	384 (50.1)
あまり理解 できなかった	11 (8.9)	6 (4.8)	8 (6.5)	15 (12.1)	40 (8.1)	8 (13.1)	18 (19.8)	5 (7.1)	5 (10.2)	36 (13.3)	76 (9.9)
ほとんど できなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	2 (2.2)	0 (0.0)	1 (2.0)	4 (1.5)	4 (0.5)
無 回 答	17 (13.7)	18 (14.5)	33 (26.6)	26 (21.0)	94 (18.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)	0 (0.0)	1 (0.4)	95 (12.4)
計	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	496 (100.0)	61 (100.0)	91 (100.0)	70 (100.0)	49 (100.0)	271 (100.0)	767 (100.0)

10. 講義への期待の満足度

	一般聴講生					法学部学生					計
	7回	9回	11回	13回	小計	7回	9回	11回	13回	小計	
大いに 満たされた	17 (13.7)	13 (10.5)	11 (8.9)	15 (12.1)	56 (11.3)	3 (4.9)	0 (0.0)	3 (4.3)	1 (2.0)	7 (2.6)	63 (8.2)
だいたい 満たされた	53 (42.7)	56 (45.2)	50 (40.3)	39 (31.4)	198 (39.9)	23 (37.7)	29 (32.2)	24 (34.3)	11 (22.5)	87 (32.1)	285 (37.2)
まあまあ だった	31 (25.0)	28 (22.5)	22 (17.8)	32 (25.8)	113 (22.8)	29 (47.6)	42 (46.6)	27 (38.6)	26 (53.1)	124 (45.8)	237 (30.9)
あまり満たさ れなかった	1 (0.8)	5 (4.0)	4 (3.2)	8 (6.5)	18 (3.6)	3 (4.9)	17 (18.9)	10 (14.3)	7 (14.3)	37 (13.6)	55 (7.2)
ほとんど満た されなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.3)	3 (3.3)	2 (2.8)	3 (6.1)	10 (3.7)	10 (1.3)
無 回 答	22 (17.8)	22 (17.8)	37 (29.8)	30 (24.2)	111 (22.4)	1 (1.6)	0 (0.0)	4 (5.7)	1 (2.0)	6 (2.2)	117 (15.2)
計	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	124 (100.0)	496 (100.0)	61 (100.0)	90 (100.0)	70 (100.0)	49 (100.0)	271 (100.0)	767 (100.0)

以下は法学部学生のみ

11. 平常の授業との比較

	7回	9回	11回	13回	計
大いに興味をもてた	8 (13.1)	2 (2.2)	4 (5.7)	2 (4.1)	16 (5.9)
やや興味をもてた	30 (49.2)	27 (29.7)	25 (35.7)	13 (26.5)	95 (35.1)
あまり変わらなかった	18 (29.5)	30 (32.9)	23 (32.9)	19 (38.8)	90 (33.2)
やや興味がそがれた	5 (8.2)	27 (29.7)	16 (22.9)	11 (22.5)	59 (21.8)
大いに興味がそがれた	0 (0.0)	5 (5.5)	0 (0.0)	1 (2.0)	6 (2.2)
無 回 答	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.8)	3 (6.1)	5 (1.8)
計	61 (100.0)	91 (100.0)	70 (100.0)	49 (100.0)	271 (100.0)

12. 放送講座テープの授業教材への利用について

	7回	9回	11回	13回	計
大いに利用すべき	2 (3.3)	4 (4.4)	5 (7.1)	2 (4.1)	13 (4.8)
利用できるところは 利用すべき	41 (67.2)	39 (42.9)	41 (58.6)	28 (57.1)	149 (55.0)
どちらともいえない	6 (9.8)	16 (17.6)	7 (10.0)	7 (14.3)	36 (13.3)
利用するほどではない	5 (8.2)	19 (20.8)	11 (15.7)	9 (18.4)	44 (16.2)
利用は望ましくない	4 (6.6)	7 (7.7)	2 (2.9)	2 (4.1)	15 (5.5)
無 回 答	3 (4.9)	6 (6.6)	4 (5.7)	1 (2.0)	14 (5.2)
計	61 (100.0)	91 (100.0)	70 (100.0)	49 (100.0)	271 (100.0)

13. 利用に積極的な理由（二つ回答）

	7回	9回	11回	13回	計
授業が活性化されるから	9 (14.1)	20 (29.9)	17 (22.4)	8 (18.2)	54 (21.5)
授業では得られない 内容を盛り込めるから	25 (39.1)	22 (32.8)	21 (27.6)	15 (34.1)	83 (33.1)
担当教師以外の人 話が聞けるから	12 (18.7)	10 (14.9)	17 (22.4)	11 (25.0)	50 (19.9)
内容が わかりやすいから	14 (21.9)	12 (17.9)	15 (19.7)	8 (18.2)	49 (19.5)
そ の 他	4 (6.2)	3 (4.5)	6 (7.9)	2 (4.5)	15 (6.0)
計	64 (100.0)	67 (100.0)	76 (100.0)	44 (100.0)	251 (100.0)

14. 利用に消極的な理由（二つ回答）

	7回	9回	11回	13回	計
やさしすぎるから	0 (0.0)	1 (2.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.1)
授業と あまり変わらないから	1 (8.3)	2 (5.4)	3 (12.0)	3 (17.6)	9 (9.9)
テープでは 理解しにくいから	3 (25.0)	12 (32.4)	8 (32.0)	7 (41.2)	30 (33.0)
肉声の 授業がよいから	6 (50.0)	15 (40.6)	9 (36.0)	6 (35.3)	36 (39.5)
そ の 他	2 (16.7)	7 (18.9)	5 (20.0)	1 (5.9)	15 (16.5)
計	12 (100.0)	37 (100.0)	25 (100.0)	17 (100.0)	91 (100.0)

資料Ⅱ

法学部学生 自由記述欄内容

1 よくわかったこと、なるほどと思ったこと、印象に残ったこと

【第13回】

- ・紛争解決は裁判より話し合いによる和解の方が後にしこりが残らず優れていること。
- ・訴訟における弁護士の役割が重要となってくるにもかかわらず、その保障という面で遅れていること。
- ・弁護士費用が含まれないのは、本人訴訟主義だからということ。
- ・合意による和解の特徴（互譲など）がわかった。印象に残ったのは、訴訟費用が払えない場合、国庫から支払ってもらえることで、「裁判は金がかかる」思っている人にとって役立ったのではないか。
- ・紛争解決の方法の違いとそれぞれの役割ないし長所。
- ・紛争の解決法。
- ・和解調停はあとにしこりを残さないという利点があること。
- ・和解調停の当事者同士の話し合いによる問題解決が民事事件の解決方法としては理想的であること。
- ・親類間の紛争はできるだけ和解によるべきであること。
- ・私人間の紛争の解決には、裁判によるものと当事者間の合意によるものがあることがよくわかった。
- ・示談、即決和解、調停。
- ・授業で一度はふれた部分が多かったので良く理解できたと思う。ある程度の前知識は必要だと感じた。
- ・当事者の行為による訴訟の終了にはどのようなものがあるか、これは講義でも一度やったところなので、それを改めて聴いて講義内容の補足をすることができた。
- ・紛争解決には、話し合いによるものと訴訟によるものの二つがあり、話し合いによる方が円満で、費用がかからないこと。
- ・和解、調停による解決方法が理想的であることはよくわかった。
- ・授業でしたことと同じで復習のような感じだった。民事訴訟はわれわれの身近な問題であり示談などは特に印象深かった。
- ・内容証明郵便の利用方法。
- ・紛争の解決方法が、裁判によるものより和解による方法が時間も費用がかかるということ。そのため和解による方法が好ましいということ。

- ・ 弁護士の役割。
- ・ 弁護士を頼まなかった場合に、不利益をこうむる可能性があるということ（弁護士の重要性がよくわかった）。
- ・ 弁護士に委任するのが適当だということ。
- ・ 裁判上の和解と既判力について。
- ・ 訴訟前の和解をするほうがあとにしこりをのこさないから裁判に持ち込むよりよいということ。
- ・ 訴訟による和解は権利意識を高めるが、合意による解決はそうではないという点。
- ・ どのような紛争解決の方法があるのか基本的に説明してくれた。

2 よくわからなかったこと、もうすこし説明してほしいこと、疑問に思ったこと

【 第13回 】

- ・ 裁判の手続きについてもっと説明して欲しかった。
- ・ 結局は弁護士に聴けという言い方。
- ・ 訴訟による和解の過程が明確でなかった。また、弁護士の役割をもう少し詳しく説明して欲しかった。
- ・ 弁護士に依頼した場合の具体的費用や裁判に要する費用、期間等についてもう少し説明して欲しかった。
- ・ 講義として使用するとすれば、民法何条とか民訴法何条とか具体的に関連してくる条文を取り上げ、しかも、その一般的解釈を簡単に説明した方がよいのではないのでしょうか。
- ・ 裁判費用、弁護士費用に関して、法律扶助の外国の実態の説明もして欲しかった。
- ・ 裁判所での実際の運用方法。
- ・ 「弁護士の役割」と標題にあったわりには講義の中の比率が低いなあと感じた。
- ・ テキストを見ながらではなかったので、紛争解決の手段にどのようなものがあるのかというのはわかったが、その意義や適用される場合等については、今一步聞き取ることができない部分があった。
- ・ 弁護士の活用の仕方。
- ・ 専門用語の説明。
- ・ 強制執行手続。

- ・示談の効力、効用等について。
- ・既判力の諸効力についてもう少し説明して欲しかった。
- ・裁判に持ち込まれた場合のことがよくわからなかった。
- ・全般的に主な点を絞って話しされていたのでわかりやすかったが、授業と違って、全体的に内容が平坦になりすぎてものたりない感じがした。

3 その他、講義の内容や講義の仕方についての感想や意見

【第13回】

- ・全体的に専門用語が多く、法学部学生ならともかく、一般の人には少し難しいのではと思われた。しかし、講義の内容自体は非常に論理的で良いことをいわれていた。
- ・法律にあまり詳しくない人が聴いたら、殆どわからなかったと思う。専門用語が多く、話し方が早かったから。
- ・テキストを見ながら聴かないとわかりにくかったのではないかな。少し専門的な部分にまでは入り込んでおり、一般の人にはわかりにくかったのではないかな。
- ・素人が聴いてわかるんですか。「みなす」という一言にしたって普通じゃないのに。
- ・設例が多いほうが良いのでは。
- ・もう少し明確な話し方（発音など）をして欲しい。
- ・通常の講義とは異なるこのような一般向けの講義においては、法律用語を説明するよりは、具体的事例を挙げたり、訴訟に至る前段階においての裁判所の利用方法（仮執行宣言、支払い命令）などについて詳しく説明した方がよいのではないだろうか（訴訟となれば弁護士に依頼せざるを得ないだろうから）。
- ・「くらしの中の法」というラジオ番組としては内容など妥当であると思う。また、法律を勉強したことのない人に対するガイダンス的使用にも多少の編集で対応できると思うが、ある程度法学を勉強した人（法学部に入学して2・3年過ぎた人）にとっては無意味だと思う。ただし、演習、重要問題解説、重要学説判例など部分的な解説、体系の説明には有効だと思う。
- ・もっと具体的例など挙げながら（XとYの賃貸借による紛争等をベースに）説明すると、身近になっていいと思う。
- ・アナウンサーの質問に先生が答える形がよかった。
- ・具体的事例を挙げて説明すればもっとわかりやすいと思う。
- ・もう少し声の強弱を付けたほうがいい。重要なところは繰り返して話してもら

いたい。

- ・ラジオという性質から、もう少しわかりやすい表現でもよかったのではないか。
- ・先生の話し方は抑揚がなく聞きづらい。
- ・あまりにも先生が立て板に水のごとお話しになるので途中で少し飽きてきた。
- ・一方的なものでなく、質疑応答によるものがよいのではないだろうか。
- ・話の全体が単調であり、飽きっぽさを感じた。どこかにアクセントをおいて、興味を集中させるようなやり方を考えたらよいのでは。
- ・話だけでは聴講者にとってはわかりにくいと思う。
- ・テキストなしで音だけで聞いたがそれだけではほとんど理解できない。テキストを一度見たいが、内容としてもあまり興味がわかかなかった。もう少し社会の現実に即したもっと身近なテーマを選んだほうがいい。
- ・専門に学んでいるのではない一般的な人に対しては専門用語の解説を入れるとよいのでは。
- ・だらだら話すだけでインパクトのない感じだった。
- ・今回の放送を聞いて、法学部学生であるなら当然知っているであろう語句が、一般の人に対しては民事訴訟を理解する上で、障害とならなかったらどうかとの疑問をもった。もっとわかりやすい語句説明があってもよかったのでは。
- ・このままでよいと思いますが、あまりにも講師が話しすぎであるから、もっと質疑、応答があってもよいと思う。

4 今回のテープの講義を聴いて、平常の授業と比較しての感想

4-1 授業よりも興味がもてた理由

【第13回】

- ・わかりやすいから。
- ・平易な内容でしかも内容がきちんと整理されていたから。
- ・内容についてはたいして興味はなかったが、授業の方法として利用価値はあると思う。例えば、授業内容の補足としてテープを利用したり、気分転換にも使えと思った。
- ・説明が丁寧だった。
- ・身近な問題だから。
- ・話し方が丁寧で専門用語が少なかったこと。
- ・話がゆっくりでわかりやすい。テキストがあればもっとわかりやすいのでは。
- ・普段の講義ではここまで詳しくやらないから。
- ・わかりやすく説明されているから。

- ・現実の社会問題に接しうるから。
- ・説明の仕方がわりとやさしく要点が整理されていたのでわかりやすかった。

4-2 授業よりも興味がそがれた理由

【第13回】

- ・実際、講師の顔を見て受講した方が臨場感がある。
- ・録音テープのため集中しにくかった。
- ・民訴は受けていませんが、一般的すぎる感がある。しかし、これ以上専門化したら一般人にはわからなくなるだろう。
- ・同じところをやったし、内容もさほど変わらなかったから。
- ・講師が一方的に話すという形式は授業となんらかわらないから。
- ・話を聴くだけでやや単調。
- ・授業の内容と類似していたから。
- ・話し方が単調であったから。
- ・一度聞いた話だったので。
- ・先生の授業そのままとしか感じられません。
- ・授業も聞きようによってはそれなりにおもしろい。
- ・テープだけでは理解しにくい。それに話が単調だ。
- ・テキストがなかったことによる。
- ・先生の話し方がいつもとかわっていなかったから。
- ・普段の講義となんら違いはない。
- ・先生の声が、文章の終わりにくるとボソボソとなり聞こえにくかったから。
- ・授業と同じことをかなり略しているから。
- ・授業よりレベルを落としていると思う。しかし、基本を理解するには良い。それぞれ相殺してあまり変わらないくらい。

5 放送講座のテープを教材として利用することについての感想

5-1 利用に積極的な理由

【第13回】

- ・繰り返し聴くことによって完全理解ができる。
- ・テープ自体このままでは使えないが、多少の編集をして、各課目のガイダンス的使用には有効だと思う。

5 - 2 利用に消極的な理由

【 第 13 回 】

- ・ テープなんぞを使うような授業に年 25 万円の授業料を払っているんじゃない。通信教育と変わらない、あるいはそれ以下だ。もしなったら、こっちもノートを取るということはせずにレコーダーを用意して録ることにしようか。
- ・ 内容が限られて広がらないから。

問3 今回の講義のテーマについてどの程度、関心がありましたか。

- 1 大いに関心があった。
- 2 かなり関心があった。
- 3 それなりの関心はあった。
- 4 あまり関心がなかった。
- 5 ほとんど関心がなかった。

問4 講義を聴くまえに、あらかじめ今回の放送分についてテキストを読みましたか。

- 1 ていねいに読んだ。
- 2 一通り読んだ。
- 3 一部だけ目を通した。
- 4 読まなかった。

* テキストについての感想をお聞かせ下さい。

問5 今回の講義の内容は全体としてやさしかったですか、難しかったですか。

- 1 たいへん難しかったです。
- 2 難しかったです。
- 3 ふつうだった。
- 4 やさしかったです。
- 5 たいへんやさしかったです。

問6 今回の講義の内容はどれくらい理解できたと思われますか。

- 1 たいへんよく理解できた。
- 2 よく理解できた。
- 3 ほぼ理解できた。
- 4 あまり理解できなかった。
- 5 ほとんど理解できなかった。

問7 今回の講義の内容を聴いて、あなたの期待はどの程度満たされましたか。

- 1 大いに満たされた。
- 2 だいたい満たされた。
- 3 まあまあだった。
- 4 あまり満たされなかった。
- 5 ほとんど満たされなかった。

問3 今回の講義のテーマについてどの程度、関心がありましたか。

- 1 大いに関心があった。
- 2 かなり関心があった。
- 3 それなりの関心はあった。
- 4 あまり関心がなかった。
- 5 ほとんど関心がなかった。

問4 講義を聴くまえに、あらかじめ今回の放送分についてテキストを読みましたか。

- 1 ていねいに読んだ。
- 2 一通り読んだ。
- 3 一部だけ目を通した。
- 4 読まなかった。

* テキストについての感想をお聞かせ下さい。

問5 今回の講義の内容は全体としてやさしかったですか、難しかったですか。

- 1 たいへん難しかった。
- 2 難しかった。
- 3 ふつうだった。
- 4 やさしかったです。
- 5 たいへんやさしかったです。

問6 今回の講義の内容はどれくらい理解できたと思われますか。

- 1 たいへんよく理解できた。
- 2 よく理解できた。
- 3 ほぼ理解できた。
- 4 あまり理解できなかった。
- 5 ほとんど理解できなかった。

問7 今回の講義の内容を聴いて、あなたの期待はどの程度満たされましたか。

- 1 大いに満たされた。
- 2 だいたい満たされた。
- 3 まあまあだった。
- 4 あまり満たされなかった。
- 5 ほとんど満たされなかった。

問8 今回の講義の内容について感想を具体的にお書き下さい。

- 1 よくわかったこと、なるほどと思ったこと、印象に残ったことはどんなことでしたか。

- 2 よくわからなかったこと、もうすこし説明してほしかったこと、疑問に思ったことはどんなことでしたか。

問9 今回の講義の内容や講義の仕方などについて、ほかにご感想やご意見がありましたら、率直にお書きください。

問10 スタジオでの講義の後の質疑応答は、講義内容を深めるのにどれくらい役に立ちましたか

- 1 とても役に立った。
- 2 かなり役に立った。
- 3 まあまあ役に立った。
- 4それほど役に立たなかった。
- 5 ほとんど役に立たなかった。

問1 1. あなたの性別についてお答えください。

- 1 男 2 女

問1 2. あなたの年齢は何歳ですか。

- | | |
|----------|----------|
| 1 20歳未満 | 2 20～29歳 |
| 3 30～39歳 | 4 40～49歳 |
| 5 50～59歳 | 6 60～69歳 |
| 7 70歳以上 | |

問1 3. あなたの学歴についてお答えください。

(なお、現在在学中の方は、6～9の中から選んでください。)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 小学校・新制中学・旧制高小卒 | 2 新制高校・旧制中学卒 |
| 3 短大・新制高専卒 | 4 大学・旧制高専・旧制高校卒 |
| 5 専修学校・各種学校卒 | 6 短大・高専在学中 |
| 7 大学在学中 | 8 大学院在学中 |
| 9 専修学校・各種学校在学中 | 10 その他 |

問1 4. あなたの職業についてお答えください。

- | | |
|-----------------------------------|------------|
| 1 農林漁業（自営者・家族従事者を含める） | |
| 2 事務・技術系の職業（一般会社・一般公務員など） | |
| 3 労務系の仕事（工員・運転手・大工などを含める） | |
| 4 大企業・官公庁の幹部職員・自由業（開業医や弁護士なども含める） | |
| 5 教育職・研究職（学校教員・大学教員・研究所所員など） | |
| 6 中小企業経営者・商店主 | 7 主婦・家事手伝い |
| 8 学生 | 9 無職・その他 |

ご協力ありがとうございました。

資料Ⅳ

アンケート調査票(法学部学生)

第 1 1 回「老人の健康維持・回復は誰の責任か」

記入要領

- *それぞれの質問の答えの番号に○印をつけて下さい。
- *答えが用意されていない質問には、簡単で結構ですから文章で記入して下さい。

(問1、問2はありません。)

問3 今回の講義のテーマについてどの程度、関心がありましたか。

- 1 大いに関心があった。
- 2 かなり関心があった。
- 3 それなりの関心はあった。
- 4 あまり関心がなかった。
- 5 ほとんど関心がなかった。

問4 講義を聴くまえに、あらかじめ今回の放送分についてテキストを読みましたか。

- 1 ていねいに読んだ。
- 2 一通り読んだ。
- 3 一部だけ目を通した。
- 4 読まなかった。

*テキストについての感想をお聞かせ下さい。

問5 今回の講義の内容は全体としてやさしかったですか、難しかったですか。

- 1 たいへん難しかった。
- 2 難しかった。
- 3 ふつうだった。
- 4 やさしかった。
- 5 たいへんやさしかった。

問6 今回の講義の内容はどれくらい理解できたと思われますか。

- 1 たいへんよく理解できた。
- 2 よく理解できた。
- 3 ほぼ理解できた。
- 4 あまり理解できなかった。
- 5 ほとんど理解できなかった。

問7 今回の講義の内容を聴いて、あなたの期待はどの程度満たされましたか。

- 1 大いに満たされた。
- 2 だいたい満たされた。
- 3 まあまあだった。
- 4 あまり満たされなかった。
- 5 ほとんど満たされなかった。

問8 今回の講義の内容について感想を具体的にお書き下さい。

- 1 よくわかったこと、なるほどと思ったこと、印象に残ったことはどんなことでしたか。

- 2 よくわからなかったこと、もうすこし説明してほしかったこと、疑問に思ったことはどんなことでしたか。

問 9 今回の講義の内容や講義の仕方などについて、ほかにご感想やご意見がありましたら、率直にお書きください。

問 10 今回のテープの講義を聴いて、平常の授業と比べて、どのような感想をもちましたか。

- 1 授業よりも大いに興味がもてた。
- 2 授業よりもやや興味がもてた。
- 3 授業とあまり変わらなかった。
- 4 授業よりもやや興味がそがれた。
- 5 授業よりも大いに興味がそがれた。

* (問 10 で 1、2 と答えた人) その理由はなんですか。

* (問 10 で 3、4 と答えた人) その理由はなんですか。

問 1 1 放送講座のテープを教材として利用することについてどのように思いますか。

- 1 大いに利用するのが望ましい。
- 2 利用できるところは利用したほうがよい。
- 3 どちらともいえない。
- 4 利用するほどのことはない。
- 5 利用するのは望ましくない。

問 1 2 (問 1 1 で 1、2 と答えた人) その理由を二つお聞かせください。

- 1 テープという教材利用によってその授業が活性化されるから。
- 2 通常の授業では得られない内容が盛り込めるから。
- 3 担当の教師以外の人の話が聞けるから。
- 4 内容がわかりやすいから。
- 5 その他 ()

問 1 3 (問 1 1 で 4、5 と答えた人) その理由を二つお聞かせください。

- 1 やさしすぎるから。
- 2 授業とそれほど違いがないから。
- 3 テープでは理解しにくいから。
- 4 教師自身の肉声による授業が望ましいから。
- 5 その他 ()

問 1 4 あなたの性別についてお答えください。

- 1 男
- 2 女

問 1 5 あなたは何年次ですか。

- 1 2 年次
- 2 3 年次
- 3 4 年次

ご協力ありがとうございました。